

皆様 こんにちは、今日もお読みいただき、ありがとうございます。  
ラーニングイットの河合です。

今回から3回にかけて、人の育成に欠かすことのできない  
「ほめる」について考えてみたいと思います。

ところで皆さんは、親（家庭）や先生（学校）、そして上司・先輩（職場）から  
どのように言われて、育てられることが多かったでしょうか？ 私は、  
「まだまだ、〇〇ができていない」  
「もっともっと、△△をしないといけない」 etc…  
というような「叱咤激励型」が多かったように思います。

これは古いやり方で、今は『褒めて伸ばす』という手法が主流です。  
多くの企業が導入した「コーチング」も“承認”を重視していますし、  
とうとう「ほめ達（ほめる達人）検定」なるものまで登場しました。  
<http://www.hometatsu.jp/>

今の世の中、「褒めて育てましょう！」と大合唱ですが、  
実際は、褒めるに値しないようなケースも、少なくありません。  
そんな場合でも、（無理して）褒めたほうがよいのでしょうか？

先日、時間と戦いながら、焦って夕食を作っている私に、  
娘が「ママ、これ見てえ〜！」と自信满满そうに、絵を見せてくれました。  
ちょっとイラつきながらも、手を少し休め、視線をそちらに向けて  
（否、絵を見るフリをして）、口元をゆるめ、声を作って  
「上手に書けたね〜」と声をかけました。

でも、本心は全く別のことを思っていました。  
まず、絵を見て率直に思ったのは、  
「お世辞にも上手いとは言えない絵だなあ〜」です。  
さらには、「この程度の絵で褒めてしまっっては、本人が満足してしまい、  
これ以上努力しなくなるのでは？」という警戒心（恐れ）。  
とは言うものの、「ここはとりあえず、本人のモチベーションのために、  
褒めておいたほうが得策なのだろう。」  
というような、いくつもの想いが瞬時にかけめぐった結果、  
これが模範的な対応だろう、と行って口について出たのが

「上手に書けたね～」なのです。

今日はこの辺で・・・。

次回、「褒める」について、引き続き畑中がお届けします。

その間、皆さんに「褒める」について、今一度、考えてみて頂けたら嬉しいです。

「お世辞にも褒められないとき、どうしたらよいのか」

A：「褒めるべき結果でなくても、とりあえず褒める（できれば上手く!）」

B：「褒めるべき結果でなければ、褒めるべきではない」

みなさんは、どちら派ですか？

ご意見、ぜひお寄せ下さい。お待ちしております！

[info@learningit.jp](mailto:info@learningit.jp)

では、今日も皆様にとって、楽しい一日でありますように♪